



いまや入試に不可欠！小論文について知ろう！！

今年の秋も、放課後の職員室では推薦入試ⅠやAO入試に向けて小論文指導を受ける3年生の姿が多く見られました。今後は推薦入試Ⅱや一般入試に向けた指導が本格化し、さらにたくさんの方が担当の先生による個別指導を受けて、入試本番に臨むことになります。

もちろん1・2年生にとっても他人事ではありません。国語や数学、英語等の学習と同様、今のうちから小論文を書くための準備・練習を始めておく必要があります。期末考査が終わるとすぐに小論文学習が始まり、12月21日(木)には小論文トレーニング(小論文模試)も実施されますので、しっかりと“自分のこと”として取り組みましょう。



なぜ小論文を書く能力が求められるのか

1 大学に進学してから役立つ

大学ではテーマに沿った文献を読んだり講義を聞いたりして、その内容をレポートとしてまとめたり、論文として自分の意見を発表したりする機会が多くあります。また定期試験の多くが「～について述べよ。」といった論述問題であり、4年生(または6年生)になると、卒業論文を書かなくてはなりません。自分の考えを論理的に文章にまとめる力が求められます。



2 就職する際や社会に出たら役立つ

今や多くの企業の就職試験では、まずエントリーシートで、この企業で何をしたいか、説明をする必要があります。そして、ディスカッションや面接などで、テーマについて自分の考えを「論理的に」「わかりやすく」表現する能力が試されます。また、仕事において、上司や取引先に企画書や報告書などの文書を提出したり、プレゼンテーションをしたりと、「簡潔に」「わかりやすく」説明しなければならない場面が日常的にあります。

3 大学入試で役立つ

近年の大学入試は小論文抜きでは語れません。国公立・私立を問わず、入試で小論文を課す大学は8割を越えており、今後も増加傾向にあります。小論文は、志望する大学の学部・学科で学ぶために必要な「知識・理解力・分析力・構想力・表現力」があるかを試す判定資料になります。



小論文を書くうえで土台となるのは「自分自身」です。これまでの経験やその時に得た実感、各教科の知識、社会の出来事に対する知識、志望する学問に関する知識は、小論文を書くための材料です。短期間で身につけることは容易ではないので、早いうちから小論文を意識した学習をしておくことが大切です。

小論文とはどのような文章か

作文と小論文はどう違うのでしょうか。次の例題で比較してみましょう。

例題 フリーターの増加について書きなさい。

【作文】 フリーターの増加は、しかたがないことだと思う。どうせ働くなら、自分を生かせる仕事のほうがよい。だから、そういう仕事が見つかるまで、フリーターの身分でいろいろな職業を経験することは悪くないと思う。

【小論文】 フリーターの増加については、働く側と雇用する側の両面から考えなくてはならない。働く側は、しっかりとした将来の展望を持つことが必要だ。一方、雇用する側には、働く者の就労意欲を高める努力や、若者の職業訓練の場を提供するなどの努力が必要だ。

作文では、与えられた課題について、あなたの経験や見聞から感じたことや考えたことを、思いのままに書くことができました。つまり、「自分の言いたいことを自由に述べた文章」であるといえます。

一方、小論文には、作文とは異なる視点が求められます。作文のように自分の考えを一方向的に述べるのではなく、読み手である他者の存在を意識し、他者に理解してもらおうことを目指すのです。小論文を定義すると、以下のようになります。

「小論文」=

課題で問われている事からについての**自分の意見**を

他者も理解できるように（=客観的に）

筋道を立てて（=論理的に）

述べた文章

小論文に備えて日頃からできること

1 世の中の動きに目を向ける

小論文のテーマに取り上げられるものの多くは、社会で問題になっていることです。普段から社会の動きに関心を持ち、新聞の見出しや気になる記事を読んだり、ニュース番組を見たりする習慣を身につけましょう。その際、「今、どんなことが起きているのか」を知るだけでなく、「その問題にはどのような背景があるのか」「どうすれば解決へと導くことができるのか」ということ、自分の問題として考える癖をつけましょう。

2 身近な問題について周囲の人と話し合ってみる



小論文に欠かせない「自分の意見」は、様々なものの見方、考え方に触れることで膨らんでいきます。立場が変われば、意見も違ってきます。今日見たニュースのことなど、家族や友だちなどと話し合ってみると良いでしょう。

3 普段の教科の学習を大切にす

教科の学習と小論文には密接な関係があります。例えば、課題文を読む際には「国語」や「英語」で身につく読解力が、扱われるテーマの理解には「地歴公民」で学んだ知識が、理系の小論文では「理科」「保健」「家庭科」などの知識が生かされます。また、医・歯・薬学系統の学部などでは「英語」の資料文が課せられたり、グラフの読み取りなど「数学」的な思考力が求められたりもします。つまり、普段の教科の学習が、小論文の力の基礎になっているのです。

